

目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 スタッフ人員の少ない夜間、早朝の災害発生時の避難体制の確立が不十分である。	夜間、早朝の時間帯の災害時の人員の召集と避難体制の確立ができて、災害を発生させない。	想定に基づき、緊急連絡網を活用し迅速な人員召集訓練を行う。 巡視時、巡視場所を徹底して割り異常の有無を把握して記録に記載する。	1ヶ月
2	2	○事業所と地域のつなぎ 地域の人々への施設の入り方や生活している利用者の現状が利解解していない。	事業所施設が地域の一員として役割を果たし、利用者が地域とつながりながら安心して生活が確保できる。	施設としての入り方と地域の皆様に理解を得、災害等の救助用品の要請や気軽な交流の場となる地域総会等に出席し参加を促す。	2ヶ月
3	4	○運営推進会議を活用して取り組み構成メンバーより更なる意見や提言が求むべく、意見や質問に対しての解答や向上に繋がる事ができるように。	会議で話し合った内容等とアピス外に他分野において意見の交換を行い評価を実施し報告や実践が出来る。	会議記録以外に議題や質問に添った評価記録を作成し、次の会議に活用し報告できるようにする。	2ヶ月
4	49	○日常的に戸外の外出支援 寒い時期の外出支援が不足している。	利用者のレベルに添った可能な限り日常的に希望を盛り込んだ外出ができる。	計画に添った行事外出以外の外出支援(女性用等に買い物に行く、希望した時に散歩や屋外日光浴ができる、田舎近所へ出かけ回覧等)を提供する。	3ヶ月
5	38	○日々の暮らしの暮らし 体面とその人の特徴の見え方が豊く、守りの体制を作り上げている。	日常の状態をよく見守り本人のしぐさや理解し、リスケを促して(お事は)と考える安全に配慮し見守りを行い行動制限に添ったよう支援する。	本人の機能、認識のレベル等により個別対応。一貫したやり方で行う様、指針の活用をする。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。